

原 著

## モーツァルトの《声楽のためのソルフエージュ Solfeggien für eine Singstimme K.393 (385b)》と アスパージアのアリア「迫り来る運命から Al destin, che la minaccia」 （《ポントの王ミトリダーテ Mitridate, re di Ponto K.87 (74a)》）に おける類似する旋律：声楽上の共通点とアリアの背景

金谷 めぐみ\*

### ＜要 旨＞

モーツァルト (Wolfgang Amadeus Mozart, 1756-1791) の《ソルフエージュと声楽練習 Solfeggien und Gesangsübungen K.-V.393》(以下《ソルフエージュ》) に収められている全5曲 (Solfeggio 1,-2,-3, -Fragment, および Esercizio per il canto) と、アスパージア (《ポントの王ミトリダーテ Mitridate, re di Ponto K.87 (74a)》) のアリアの中に類似する旋律を見出すことを目的に、読譜および音源聴取を行った。

アスパージアのアリア「迫り来る運命から Al destin, che la minaccia」と「ソルフエージュ1」の一節に類似する旋律を見出した。アスパージアのアリアは、オペラ《ポントの王ミトリダーテ Mitridate, re di Ponto K.87(74a)》の初演で歌唱したベルナスコーニ (Antonia Bernasconi, 1738-1816) の要望に添って調性および旋律に修正が施され、アリアの一節は、妻コンスタンツェの歌唱訓練を想定して作曲した「ソルフエージュ1」に書かれたと推察した。

本稿において「ソルフエージュ1」とアスパージアのアリアに類似する旋律について解析を行い、声楽上の共通点について記し、アリアの背景を調査し、報告した。

**キーワード：モーツァルトのソルフエージュ、アスパージアのアリア**

### はじめに

《声楽のためのソルフエージュ Solfeggien für eine Singstimme K.393 (385b)》(以下、《ソルフエージュ》) は、モーツァルト (Wolfgang Amadeus Mozart, 1756-1791) が妻コンスタンツェ (Costanze Weber, 1762-1842) のために作曲した声楽練習曲である<sup>1)-4)</sup>。ユニヴァーサル社の楽譜『ソルフエージュと声楽練習 Solfeggien und Gesangsübungen K.-V.393』<sup>5)</sup>には、《ソルフエージュ》全5曲が収録されている。すなわち「ソルフエージュ1 Solfeggio 1」(ハ長調, アレグロ)、「ソルフエージュ2 Solfeggio 2」(ハ長調, アダージョ)、「ソルフエージュ3 Solfeggio 3」(変ロ長調, アンダン

テ)、「ソルフエージュ-断片」(ハ長調, アレグロ) および「声楽練習 Esercizio per il canto」(ハ長調) である。

《ソルフエージュ》が作曲された年代は、ケッヘル (Ludwig Alois Ferdinand Ritter von Köchel, 1800-1877)<sup>1)</sup> の作品目録 (“Chronologisch-thematisches Verzeichnis sämtlicher Tonwerke Wolfgang Amadé Mozarts”) によると1782年8月、アーベルト (Hermann Abert, 1871-1927)<sup>2)</sup> によると1781-1785年と推定されている。タイソンによるモーツァルトの自筆譜に関する研究<sup>6)</sup>によると「ソルフエージュ1」(ハ長調, アレグロ) は、モーツァルトがザルツブルグで1783年に入手した五線紙を使っており、「ソルフエージュ2」(ハ長調, アダージョ) は1782年、「ソ

\* 西南女学院大学保健福祉学部福祉学科

ルフエージュ3」(変ロ長調, アンダンテ) および「声楽練習」(ハ長調) は、モーツァルトが1782-84年に使用した五線紙に書かれたことが明らかにされた<sup>4)</sup>。「ソルフエージュ-断片」は、その自筆譜に1782年の作曲年が記されていることがペトロベリにより報告<sup>7)</sup>されている。

筆者は、これまで《ソルフエージュ》全曲の読譜と歌唱を行い、《ソルフエージュ》の作曲と出版の経緯、他の声楽曲との関係について報告し<sup>8)</sup>、次いで、《ソルフエージュ》とモーツァルトのオペラのアリアの旋律の関係について継続的に研究を行ってきた。すなわち、《ソルフエージュ》の「断片 Fragment」の旋律の一部がオペラ《ルーチオ・シッラ K.135》のジェーニアのアリア「ああ、いとしい人の怖ろしい危険を思うと Ah, se il crudel periglio」に<sup>9)</sup>、「ソルフエージュ1」の旋律の一部が《後宮からの逃走 K.384》のコンスタンツェのアリア「たとえどんな苦難が Martern aller Arten」に<sup>10)</sup>、さらに「ソルフエージュ3」の旋律の一部が《ドン・ジョヴァンニ K.527》のドンナ・エルヴィラのアリア「あの恩知らずの人は私を裏切った Mi tradì quell'alma ingrata K.540c」に存在すること、およびその理由と背景を報告した<sup>11)</sup>。

本稿においては、「ソルフエージュ1」とオペラ《ポントの王ミトリダーテ Mitridate, re di Ponto K.87 (74a)》のアスパーシアのアリア「迫り来る運命から Al destin, che la minaccia」に類似する旋律を見出したので、この旋律について報告し、声楽上の共通点およびアリアの背景を報告する。

## 研究方法

### 1. 材料

本研究において、《ソルフエージュ》は、ユニヴァーサル社出版(1956年)の『ソルフエージュと声楽練習 Solfeggien und Gesangsübungen K.-V.393』<sup>5)</sup>に収められている全5曲(「ソルフエージュ1 Solfeggio 1」(ハ長調, アレグロ)、「ソルフエージュ2 Solfeggio 2」(ハ長調, アダージョ)、「ソルフエージュ3 Solfeggio 3」(変ロ長調, アンダンテ)、「ソルフエージュ-断片」(ハ長調, アレグロ)および「声楽練習 Esercizio per il canto」(ハ長調))の楽譜を使用した。アスパーシアのアリア「迫り来る運命から Al destin, che la minaccia」は、ベーレンライター社出版(2001年)の楽譜(ヴォーカルスコア)<sup>12)</sup>の19頁~28頁

に記載された「迫り来る運命から Al destin, che la minaccia」(ハ長調, アレグロ)および365頁~378頁に記載された付録「迫り来る運命から Al destin, che la minaccia- appendice」(ト長調, アレグロ)の楽譜を使用し、音源<sup>13)</sup>は、シグナムレコード(クラシックレーベル)社が2014年に発売したCD『Mitridate, re di Ponto』のCD1-第6曲目「Al destin, che la minaccia」(6分4秒)およびCD4-第1曲目「Al destin, che la minaccia- original versions」(8分6秒)、歌手はミア・パーション(Miah Persson, 1969-)、オーケストラ指揮者はイアン・ページ(Ian Page, 1963-)のものをを用いた。

### 2. 楽曲名の表記

《ソルフエージュ》の楽曲名は、ユニヴァーサル社出版(1956年)の楽譜『ソルフエージュと声楽練習 Solfeggien und Gesangsübungen K.-V.393』<sup>5)</sup>に記載された曲名の日本語訳、すなわち「ソルフエージュ1」(ハ長調, アレグロ)、「ソルフエージュ2」(ハ長調, アダージョ)、「ソルフエージュ3」(変ロ長調, アンダンテ)、「ソルフエージュ断片」(ハ長調, アレグロ)および「声楽練習」(ハ長調)を使用した。

### 3. 解析方法

モーツァルトの《ソルフエージュ》<sup>5)</sup>を読譜し、ピアノ伴奏により歌唱した。オペラ《ポントの王ミトリダーテ Mitridate, re di Ponto K.87 (74a)》のアスパーシアのアリア「迫り来る運命から Al destin, che la minaccia」<sup>12)</sup>を読譜し、その楽曲を録音した音源<sup>13)</sup>の聴取を行い、アリアの中に《ソルフエージュ》の旋律が存在するか否かを検討した。

## 結果と考察

アスパーシアのアリア「迫り来る運命から Al destin, che la minaccia」の93-95小節(【楽譜1】)と「ソルフエージュ1」の56-58小節(【楽譜2】)に類似する旋律が見出された。



【楽譜 1】 アスパージアのアリア「迫り来る運命から Al destin, che la minaccia」(ハ長調、アレグロ) 93-95 小節



【楽譜 2】「ソルフェージュ 1」(ハ長調、アレグロ) 56-58 小節

モーツァルトのオペラ《ポントの王ミトリダーテ》は、モーツァルトが14歳で作曲した最初のオペラ・セリア(正歌劇)である。1770年に12月26日にミラノのレッジョ・ドゥカレ劇場で上演された。オペラの台本は、原作であるラシーヌ(Jean Baptiste Racine, 1639-1699)の『ミトリダート』(1673)にもとづいて、1764年にヴィットーリオ・アマデーオ・チーニャ＝サンティ(Vittorio Amedeo Cigna-Santi, 1730-1795)が書いた。なお、《ポントの王ミトリダーテ》はイタリアのオペラ界で良く知られた優れた題材であり、1767年、トリノの宮廷楽長ガスパリーニ(Quirino Gasparini, 1725頃-1778)によってすでに作曲され、トリノで上演されていた<sup>14),15)</sup>。

物語のあらすじは、紀元前135年、小アジアの黒海沿岸のポントの王ミトリダーテと、その婚約者アスパージアを巡る人間の心理を描いた物語である。ミトリダーテは、アスパージアを愛しており、彼の2人の息子であるファルナーチェとシーファレもひそかにアスパージアに想いを抱いている。ミトリダーテは、ローマ軍との戦いの遠征中に、息子達の忠誠心を探るため、自分が戦死したと誤報を流し、二人の息子にアスパージアを委ねる。かねてからアスパージアに思いを寄せていた兄ファルナーチェは彼女に言い寄り、強引に迫るが、アスパージアはひそかに愛していた弟のシーファレに助けを求める。そこで兄弟の争いが始まるが、ミトリダーテがファルナーチェのためにイズメーネを花嫁として連れて帰還する。ミトリダーテはファルナーチェの裏切りと、シーファレに想いを寄せるアスパージアの真意を知り、彼女への復讐と二人の息子を

殺す決意をする。しかし、再びローマ軍との戦が始まり、息子たちと共に出陣する。シーファレは父のために忠誠心をもって戦い、ファルナーチェも改心し、国を護るためにローマ軍と戦う。この戦いでミトリダーテは戦死するが、最後にシーファレの勇敢さと忠誠心を認め、アスパージアとの結婚を許し、ファルナーチェはイズメーネと結ばれ、皆でローマの圧政に対する復讐を誓って終幕となる。

オペラ全曲の構成は、序曲に続く25の番号の曲から成り、二重唱(18番)と終わりの五重唱(25番)以外はすべてアリアである。「ソルフェージュ1」と類似する旋律が見出されたアスパージアのアリア「迫り来る運命から Al destin, che la minaccia」は、ファルナーチェの一方的な思いに苦しめられるアスパージアが、自分を脅かしている運命から自由を求めて歌う内容で、第1幕の第1番に歌われる。アスパージア役は当時、すでにプリマ・ドンナとしての地位が確立していた歌手ベルナスコーニ(Antonia Bernasconi, 1738-1816)が初演した。ダ・カーボ形式(A-B-A')で書かれたこの曲は、A部冒頭から行進曲のリズムに乗って勢いよく前奏が始まり、音階のパッセージを中心にコロラトゥーラの旋律が歌われる。中間部のB部を経てダ・カーボ部(A')では、再びA部後半の技巧的な旋律が歌われる。このA部後半およびA'部に書かれた16分音符の技巧的な旋律(87-100小節)は14小節にわたり、この中でアルペジオを3度繰り返す旋律が「ソルフェージュ1」に類似する。アリアのアルペジオ(【楽譜1】)は、|Dm-|C-|Bm-|で書かれ、小節ごとに和音の響きが変わる。これは、アスパージア

の抱える悲しみと彼女の威厳が表現されていると推察される。この音形は、声楽技術において、コロラトゥーラにおけるアルペジオおよび1オクターブ音程を瞬時に跳躍する高い技術が必要とされる。「ソルフェージュ1」(【楽譜2】)は、|F-|C-|Dm|のアルペジオを1音ずつ順に演奏するよう書かれた自然な音形である。この音形は、モーツァルトの妻コンスタンツェの歌唱訓練を想定して書いたと著者は推察する。両者の旋律は類似しており、コロラトゥーラにおけるアルペジオを素早く3度繰り返すという声楽上の共通点を見出した。

オペラ『ポントの王ミトリダーテ』は、18世紀の後期ナポリ楽派のオペラ様式を模範として作曲された。ナポリ楽派のオペラは、演劇的要素よりも音楽と歌唱が優位にあり、とくにオペラ・セリアで歌手が自らの技巧を示すためのアリアはオペラの醍醐味であった。なかでも当時の歌手たちが習得した高度な歌唱法において歌う速いパッセージ(コロラトゥーラ、装飾)は不可欠であり、歌手が作曲家に自分の技巧に合わせて曲を書くよう要求するのは、当時の習慣であった<sup>15),16)</sup>。14歳という若さで初のオペラ・セリアの作曲に挑んだモーツァルトもこの習慣に従い、それぞれのアリアを歌う歌手たちの要求に答えるべく様々な試みを行った。アスパージのアリアの作曲において、モーツァルトは最初、ト長調のアリア(「Al destin, che la minaccia- original versions」)を用意していた。このト長調のアリアも技巧的であるが「ソルフェージュ1」に同じ旋律は見当たらない。モーツァルトの書簡<sup>17)</sup>によると、ベルナスコーニは、モーツァルトが事前に準備したト長調のアリアを練習していたが、彼女がオペラのオープニングで祝祭的な技巧の見せ場を作るよう要求したことで、最終的にトランペット伴奏つきのハ長調の華やかなアリアに改作された。また、当時、イタリアではオペラ界の派閥を巡って様々な陰謀が渦巻いており、ガスパリーニ本人またはガスパリーニから依頼を受けた物と考えられている人物がベルナスコーニのもとに、オペラの中で彼女が歌う全アリアの楽譜(ガスパリーニが作曲したもの<sup>17)</sup>)を持ち込み、モーツァルトのアリアはひとつも歌わないよう彼女に直接指示をしていた。ところが彼女はこの指示を断り、モーツァルト同席のもと何度も行われた歌の練習で、彼女の要望に従って書いたアリアを見て、大変気に入り、満足して歌ったことが記録されている。モーツァルトが作曲したアスパージのアリアと、ガスパリーニの作曲したアリアについて、多少の違いはあるがテンポおよび調性は同じであり、基本的な旋律

の進行は、ガスパリーニの影響が強いことが報告されている<sup>18)</sup>。

このオペラ作曲において、アスパージの他、主役のミトリダーテに関しても、そうした策略の中で何度もアリアの種々改変を強いられ、これについては、モーツァルト父子は後年にいたるまでその記憶を失っていない<sup>17)</sup>。ベルナスコーニがモーツァルトに要求した具体的な旋律の内容は、筆者の手元にある文献<sup>13)-18)</sup>に記録されていないが、彼女の望み通りに書かれたアリアのコロラトゥーラの一節は、13年後に妻コンスタンツェの声楽練習用に作曲した「ソルフェージュ1」の一節に類似した旋律として含まれており、モーツァルトの記憶に残る旋律であったと推測される。

## むすび

モーツァルトのオペラ『ポントの王ミトリダーテ』(1770)の初演でアスパージ役を歌唱した歌手ベルナスコーニの要望に添って改作したアリア「迫り来る運命から Al destin, che la minaccia」の旋律が、妻コンスタンツェのために書いた「ソルフェージュ1」(1783)の旋律の一部に類似することについて記述し、その類似する旋律について解析し、背景を調査し、報告した。

## 謝 辞

本論文を執筆するにあたり、ご指導を賜りました植田浩司先生(元西南女学院大学保健福祉学部教授)に心より御礼申し上げます。莊智世恵先生(国立音楽大学名誉教授)には、声楽のご指導および貴重なご助言を賜り、深く感謝申し上げます。

## 参考文献

- 1) Köchel L R: *Chronologisch-thematisches Verzeichnis sämtlicher Tonwerke Wolfgang Amadé Mozarts*. 6. Aufl. bearb. von Giegling F, Weinmann A, Sievers G. pp.417-418, Breitkopf & Härtel. sole agents in U.S.A.: C. F. Peters Corp., New York, 1964

- 2) Abert H: *W. A. MOZART*. Breitkopf & Hartel. Leipzig, 1923-4. Translated by Stewart Spenser edited by Cliff Eisen. p.699, Yale University Press. New Haven and London, 2007
- 3) Einstein A: *Mozart, His Character, His Work*. Oxford University Press. New York, 1945. 浅井真男訳:モーツァルト その人間と作品. pp.615-644, 白水社. 東京, 1961
- 4) Bauer W A, Deutsch O E: *Mozart. Briefe und Aufzeichnungen Gesamtausgabe*. hersg. von der Internationalen Stiftung Mozarteum Salzburg. Barenreiter-Verlag, Kassel. 1962-1963. 海老沢敏、高橋英雄編訳:モーツァルト書簡全集V. pp.399-427, 白水社. 東京, 1995
- 5) Mozart W A: *Solfeggien und Gesangsubüngen K.-V.393*. 1956. Continuozsatz von Eibner F, Herausgeben von Swarowski H. Universal Edition. Wien, 1956
- 6) Tyson A: *Mozart Studies of the Autograph Scores*. pp.222-233, Harvard University Press, Cambridge, Massachusetts and London, 1987
- 7) Petrobelli P: *Nochmals zu Mozarts Solfeggio KV385b/1*. MOZART-JAHRBUCH 2011. pp.239-248, Der Akademie für Mozart-Forschung der internationalen Stiftung Mozarteum Salzburg, 2012
- 8) 金谷めぐみ, 植田浩司:モーツァルトの《声楽のためのソルフエージュ Solfeggien für eine Singstimme K.393(385b)》～作曲、出版の経緯およびモーツァルトの他の声楽曲との関係. 西南女学院大学紀要 21:87-94, 2017
- 9) 金谷めぐみ:モーツァルトの《声楽のためのソルフエージュ Solfeggien für eine Singstimme K.393 (385b)》の「断片 Fragment」とオペラ『ルーチョ・シッラ Lucio Silla K.135』のジェーニアのアリア. 西南女学院大学紀要 21:67-74, 2017
- 10) 金谷めぐみ, 植田浩司:モーツァルトの《声楽のためのソルフエージュ Solfeggien für eine Singstimme K.393 (385b)》と《後宮からの逃走 Die Entführung aus dem Serail K. 384》におけるコンスタンツェのアリアの旋律の関係性と声楽上の意義. 西南女学院大学紀要 23:29-36, 2019
- 11) 金谷めぐみ:モーツァルトの《声楽のためのソルフエージュ Solfeggien für eine Singstimme K.393 (385b)》とオペラ《ドン・ジョヴァンニ Don Giovanni K.527》のエルヴィラのアリア「あの恩知らずの人は私を裏切った Mi tradì quell'alma ingrata K.540c」 西南女学院大学紀要 24: 47-53, 2020
- 12) Mozart W A: *Mitridate, re di Ponto KV 87 (74a)*: opera seria in tre atti. libretto, Vittorio Amedeo Cigna-Santi; deutsche Übersetzung von Eberhard Schmidt; Klavierauszug nach dem Urtext der Neuen Mozart-Ausgabe von Eugen Epplée. Kassel, Bärenreiter, 2001
- 13) Mozart W A: *Mitridate, re di Ponto K.87 (74a)*. Ian Page conductor. Recorded at St. Jude-on-the-Hill, Hampstead Garden Suburb, London, UK, 2013. Signum Records. 2014
- 14) Michael Levey: *The life and death of Mozart*. Weidenfeld & Nicolson. London, 1971. 高橋英郎, 内田文子共訳:モーツァルト光と影のドラマ. pp.102-121, 音楽之友社. 東京, 1996
- 15) Barblan G: *Mozart in Italia I viaggi*, Ricordi. Milano, 1956. 戸口幸策訳: イタリアのモーツァルト. pp.206-228, モーツァルト叢書 12. 音楽之友社. 東京, 1978
- 16) Klein, H: *The Bel canto with particular reference to the singing of Mozart*. London, 1923. 川端眞由美訳:モーツァルトを歌うためのベルカント唱法. p.25. シンフォニア. 東京, 2010
- 17) Bauer W A, Deutsch O E: *Mozart. Briefe und Aufzeichnungen Gesamtausgabe*. hersg. von der Internationalen Stiftung Mozarteum Salzburg. 4 Bände. Barenreiter-Verlag, Kassel · Basel · London · New York, 1962-1963. 海老沢敏、高橋英雄編訳:モーツァルト書簡全集II. pp.220-241, 白水社. 東京, 1995
- 18) Melissa McCann: *A performer's guide to the role of Aspasia*. James Madison University. 2018. <https://commons.lib.jmu.edu/diss201019/188> (2020/06/26)

Similar melody in Mozart's "Solfeggien für eine Singstimme K. 393(385b)"  
and Aspasia's Aria in his Opera, "Mitridate, re di Ponto K.87(74a)",  
«Al destin, che la minaccia»: The vocal similarities and the background  
of the aria

Megumi Kanaya\*

< Abstract >

The author completed the reading, and singing of "Solfeggien für eine Singstimme K. 393 (385b)" by Mozart (Wolfgang Amadeus Mozart, 1756-1791), including all five pieces of the "Solfeggien" (Solfeggio 1, -2, -3, -Fragment and Esercizio per il canto). The author also listened to the vocal score of Aspasia's Aria in "Mitridate, re di Ponto K.87(74a)" and listened attentively to a CD which recorded the performance of the opera. Following that, the author examined the relationship between the melody of the "Solfeggien" and the aria, including how the melody of the former existed in Aspasia's Aria.

A similar melody was found to exist in Aspasia's Aria, "Al destin, che la minaccia" and "Solfeggio 1". The aria was modified in tone and melody according to the request of Antonia Bernasconi (1738-1816), who sang it in the premiere of her opera "Mitridate, re di Ponto K.87(74a)". It was surmised that Section 1 of Aspasia's aria was written in "Solfeggio 1" which was composed with his wife Constanze's singing training in mind.

In this paper, the author analyzed a melody similar to "solfeggio 1" and Aspasia's aria, and described the common features of the vocal music, and investigated and reported on the background of the aria.

Keywords: Solfeggien, aria, Aspasia, Mozart

---

\* Department of Welfare, Faculty of Health and Welfare, Seinan Jo Gakuin University